

学校名 いばらきけんみとしりつおおぼしょうがっこう  
茨城県水戸市立大場小学校

校長名 いのりのりこ  
猪野典子

所在地 〒311-1125 茨城県水戸市大場町2489番地

TEL 029-269-2103

FAX 029-269-2159

E-mail 510131@sch.ibk.ed.jp

URL <http://www.magokoro.ed.jp/ooba-e/>

## 1 研究主題

「運動する楽しさや喜びを味わい、自ら運動に取り組む児童の育成」  
—学び合いを生かした授業づくりを通して—

## 2 研究の期間

平成27年度～平成29年度 3年間

## 3 研究の目的

本校では「たくましく生きる力と協力し合う心をもった子どもの育成」という学校教育目標のもと、「自ら鍛え自ら働く子」「礼儀正しく思いやりのある子」「望みをもってがんばりぬく子」を目指す児童像として指導にあたっている。

本校は、水戸市東部の農村地帯に位置する、児童数92、学級数6の小規模校である。児童は純朴で、何事にも活発に取り組むことができるが、近年は児童数の減少により、競争心や積極性の低下傾向がうかがえる。また、地域の運動環境を見ると、友達とかかわりながら自由に遊べる公園や広場はなく、学校が主たる活動の場となっている。地域のスポーツ活動については、本校を拠点とする少年団はなく、スポーツに興味がある児童は、他地域で活動しなければならないのが現状であり、児童の運動離れや体力の低下、運動する子とそうでない子の二極化が問題となっている。

このような傾向を踏まえると、児童の運動意欲や体力の向上における学校が担う役割は非常に大きいと考える。そこで、他者とかかわりを重視し、学び合いを生かした授業づくりを通して、運動する楽しさや喜びを味わい、自ら運動に取り組む児童の育成を図ることとした。

## 4 研究の方法・実践内容

### (1) 研究主題に対する基本的な考え方

本校では、研究主題について次のように捉えた。

#### ① 自ら運動に取り組む児童

自分がなりたい姿を思い描き、なりたい姿を目指して目標を決め、方法を考え、達成に向けて取り組む児童

#### ② 大場小学校の考える「運動の楽しさ、喜び」

- 運動の特性に触れる楽しさ、喜び
  - 友達とかかわる（一緒にやる）楽しさ、喜び
  - できる、できるようになる楽しさ、喜び
- ③ 体育学習で目指す学び合い

#### ○「見合う かけ合う（声） 高め合う」

人と人とかかわり合いすべてを学び合いと捉える

##### ・見合う

友達の演技を見る。お互いに見合う

##### ・かけ合う（声）

声をかける、きりりことば、かけ声をかける、応援する、ハイタッチ・握手

##### ・高め合う

ほめる、アドバイスする、きりりことば、作戦を立てる

### (2) 研究の組織・取組

研究の組織として、授業研究部と体づくり強化部の2つを設置し、研究実践及び研究仮説の検証を行った。

#### ① 授業研究部の取組

各学年の実態に応じて、系統的に授業の改善を図った。

##### ア 意図的な学び合いの場の設定

（「見合う かけ合う（声） 高め合う」）  
児童が自発的に声を出したり、応援したり、協力して考えたり、作戦を立てたりすることができるよう、お互いの演技を見合う場、声をかけ合う場、教え合い高め合う場といったかかわり合いの場を意図的に設定した。

##### イ 学習のめあて・学習の流れの明確化

学習のめあて・学習の流れなどを掲示資料や映像等を活用して児童に示すことにより、教師の説明時間を短縮し、児童の運動量や学び合いの時間を確保するようにした。また、児童が学習のめあてや、学習の流れをよく理解し、それらに沿って自主的に活動できるよう、効果的な提示を行った。

##### ウ きりりことば

応援や励まし、アドバイスやつぶやきなど、児童の声を積極的に拾い上げて紹介し、

それらを推奨することで、児童同士のかかわり合いを深め、学び合いの活性化と学習意欲の向上を図った。

それらの言葉を「きらりことば」とし、学習の中に定着させていくことで、学習の雰囲気向上させ、友達とかかわる楽しさや喜びを味わえるようにした。

#### エ 運動のコツやポイントの提示

ハードル走では、第1ハードルまでの走り方のポイント等を提示し、運動や学習の手立てに対する理解を深めることで、記録や技能の向上をねらった。

器械運動では、学び合いの活性化や質の高い学びが実現されるよう、学び合いの視点を明確に提示した。また、児童自らが気付いた運動のコツやポイントを付箋で貼り出し、友達と共有するようにした。

#### オ ICT機器の活用

ICT機器を有効活用することにより、本校が考える3つの「運動の楽しさ、喜び」を児童一人一人が味わえるような授業展開を目指した。

##### (ア) 遅延カメラのソフト（フリーソフト）

- ・10秒遅れで再生して、自分の演技を見て振り返る

##### (イ) タブレットPC

- ・自分の演技を撮影して見る
- ・グッドモデルを録画しておき、技の確認をしたり、自分や友達の演技と比較したりする
- ・作戦ボードとして活用する

##### (ウ) プロジェクター・電子黒板

- ・めあてや学習内容を効果的に掲示する
- ・前時の活動の様子を振り返る
- ・グッドモデルの映像を提示する

#### ② 体づくり強化部の取組

運動の習慣化や体力の向上を目指した実践を、年間を通して継続的にを行い、自ら運動に取り組む姿勢の育成に努めた。

##### ア マッスルタイム（朝の1分間トレーニング）

タオルや椅子などを使った簡単なトレーニングを行う「マッスルタイム」を日課表に位置付け、実施した。

さらに、休み時間や家庭でも実践するよう呼びかけるとともに、家庭への協力を促した。

##### イ 大場っ子チャレンジ（業間運動）

体力・持久力向上をねらいとした週2回の大場っ子チャレンジを実践した。毎週火曜日は10分間走（冬期は縄跳び）、金曜日は体育館で全校ダンスに取り組んだ。

## 5 研究の成果

○意図的な学び合いの場の設定やきらりことばの推奨により、児童同士が積極的に学び合いを展開し、友達とかかわる（一緒にやる）楽しさや喜びを味わい、自ら運動に取り組む児童の育成につながった。

○学習のめあて・学習の流れの明確化や運動のコツやポイントの効果的な提示により、運動が「できた」楽しさや喜びを味わい、技能の向上と自ら運動に取り組む意欲を高めることができた。

○ICT機器を活用することは、児童の活動時間の確保や技能の向上、学び合いの深まりに効果が見られ、児童一人一人が運動の楽しさや喜びを味わうことに有効に働いた。さらにこれらは、自ら運動に取り組む児童の育成につながった。

○「体力・運動能力調査」の総合評価A+Bの児童の割合は、研究に取り組む前の平成26年度は42.3%、研究を始めてからは、平成27年度が56.6%、平成28年度が66.2%、平成29年度が78.6%と着実に向上した。

また、「大場っ子チャレンジ」では、年度当初、低学年は5分間走で行っていたが、継続することにより、10分間走りきれるようになるなど、体力の向上に効果が見られた。

○学び合いを生かした授業を研究し、実践することにより、体育授業の充実が図られ、教員の「授業力」が向上するとともに、体育の学習指導に対する意識が高揚した。

## 6 研究の意義、発展性

3年間の研究を通して、児童の学習意欲と体力の向上、教職員の意識変容など、一定の成果をあげることができた。また、本校は、この研究成果を生かし、平成30年度から「学校体育・健康教育」を特色ある教育活動として、従来の通学区域は残したままで、市内のどこからでも就学を認める小規模特認校に認定され、今後も研究を継続・発展させていくことが求められている。そこで3年間の研究を生かし、児童には、さらに次のような力を付けたい。

○教師が示す運動のコツやポイントだけではなく、児童自身がそれらを見付け、共有し、自ら課題解決につなげることができる力

○児童自らの発想やアイデアで、練習方法や場の設定、学習用具について、工夫したり、開発したりする力

また、学び合いを生かした授業づくりについては、本校の特色ある教育活動として、今後さらに発展させていきたい。